

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 コミュニケーション実践Ⅱ		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 高橋 洋美		実務経験 高齢者施設にて生活相談員 3 年、歯科衛生士 3 年	
授業の回数 16 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・ 相手を大切にしたい自己表現を理解し、実行できる。 ・ 感情のしくみとそれをコントロールできる方法を知る。 ・ 利用者・家族の思いを知る。 [授業全体の内容の概要] ・ 問題を解くことで理解できたかどうかの確認をしながら利用者・家族・同僚等との信頼関係構築の基礎を学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 社会人として信頼関係を構築するための表現方法の基礎が身につく。 ・ 利用者に寄り沿った言動を説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 心配りを示す言葉づかいを理解する 2. 尊敬語と謙譲語を正しく使う 3. 電話のマナーを知る 4. 感じのよい電話の受け方・かけ方ができる 5. 席次・受付と案内のマナーを学ぶ 6. 傾聴の心構えを知る 7. 相手の気持ちを引き出す質問を学ぶ 8. 相手に伝わる自己表現を学ぶ		9. アンガーマネジメントを理解する 10. アサーションを理解する 11. 障害受容とご家族の心理を学ぶ 12. 利用者への対応方法を学ぶ (高齢・障害) 13. 利用者への対応方法を学ぶ (こども・うつ) 14. クレーム対応の基本を理解する 15. 自分自身へのケアを学ぶ 16. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		介護福祉スタッフのマナー 基本テキスト 日本能率協会マネジメントセンター	
[単位認定の方法及び基準]		・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・ 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)	

	<ul style="list-style-type: none"><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する（10%）。</li></ul>
--	---

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護の基本 I-2		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (4 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力を養う学習とする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> 介護福祉の基本となる理念を理解したうえで、介護福祉の専門性と倫理を学ぶ、これに関する専門職能団体の活動、介護福祉士の倫理、自立に向けた介護の考え方、そのための ICF、リハビリテーション、介護予防について基礎となる知識を理論的に学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> 介護福祉士の専門性と倫理を理解し介護福祉士に求められる専門職としての知識を得られる。具体的には「専門職能団体の活動」「介護福祉士の倫理」「自立支援」について述べることができる。また「ICF」「リハビリテーション」「介護予防」について述べるができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 介護における専門職能団体の活動① 2. 介護における専門職能団体の活動② 3. 介護における専門職能団体の活動③ 4. 介護における専門職能団体の活動④ 5. 介護福祉士の倫理① 6. 介護福祉士の倫理② 7. 介護福祉士の倫理③ 8. 介護福祉士の倫理④ 9. 自立の考え方① 10. 自立の考え方② 11. 自立の考え方③ 12. 自立の考え方④ 13. 自立の考え方⑤ 14. ICF の考え方① 15. ICF の考え方②		16. ICF の考え方③ 17. ICF の考え方④ 18. ICF の考え方⑤ 19. 自立支援とリハビリテーション① 20. 自立支援とリハビリテーション② 21. 自立支援とリハビリテーション③ 22. 自立支援とリハビリテーション④ 23. 自立支援とリハビリテーション⑤ 24. 自立支援と介護予防① 25. 自立支援と介護予防② 26. 自立支援と介護予防③ 27. 自立支援と介護予防④ 28. 自立支援と介護予防⑤ 29. まとめ 30. まとめ	

[使用テキスト・参考文献]	「介護福祉士養成講座 介護の基本 I」(中央法規出版) 「新版介護基礎学－高齢者自立支援の理論と実際」(医歯薬出版)
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 心理学		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 海津 庄平		実務経験	精神科の病院に10年ほど勤務。臨床心理士として主にカウンセリング・心理検査を実施
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>心理学の基本知識(認知・記憶・学習)について学習する。また、その基本知識の定着とともに、日常生活における心理学の応用部分にも触れる。</p> <p>人間の行動の欲求と動機づけがどのように心理学的に研究されてきているかについて学習する。さらに各自の性格や感受の発達の成長についても学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>内容の講義に加えて、内容の確認ができるように確認テストを実施する。また授業内容に合わせてグループワークを実施し、学生それぞれが言葉を覚えるだけでなく体験的に知識を習得できるように進めていく</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の基礎理論(認知・記憶・学習)の知識を深める。</li> <li>・心理学における発達の要因の知識を深める。</li> <li>・グループワークなどの体験を通して、日常生活において心理学がどのように活かせるかについて考えることができる</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. オリエンテーション、心理学とは 2. 感覚・知覚・認知 3. 学習と記憶 4. 学習と記憶(2) 5. 知能 6. 人間環境と集団 7. 対人交流とコミュニケーション		8. 発達の概念 9. 発達の概念(2) 10. 適応とストレス 11. 性格 12. 感情 13. 欲求と動機づけ 14. 葛藤と欲求不満 15. 心理療法	
[使用テキスト・参考文献]		・「心理学理論と心理的支援」 社会福祉士養成講座編集委員会、中央法規	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(10%) ・授業での発言や参加態度を評価する。	

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 相談援助の基盤と専門職		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター19年	
授業の回数 31回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・ ソーシャルワークとは何かを理解する。 ・ ソーシャルワーカーの仕事や意義について知る。 ・ ソーシャルワークの展開の歴史を理解する。 ・ ソーシャルワークにおける倫理の必要性について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ ソーシャルワークの展開の歴史を学んだうえでその現代的意義と概念を自分なりにレポートでまとめることができる。 ・ ソーシャルワークに関わるフォーマルとインフォーマルの活動を知り連携や協働の意味を知る。 ・ ソーシャルワークに関わる専門職としての倫理観や価値観を学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ ソーシャルワークとは何かを説明できる。 ・ 社会福祉士の定義や義務・連携について法律を挙げて説明できる。 ・ ソーシャルワークの発展と展開の歴史やその過程について重要人物を挙げて説明できる。 ・ ソーシャルワーカーになぜ倫理が必要かを説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1 ソーシャルワークとは何か 2 社会福祉とソーシャルワーク 社会福祉の基盤なる考え (日本国憲法) 3 ソーシャルワークが求められる社会状況 社会的要因・ソーシャルワークの必要性 4 ソーシャルワークの支店と役割 生活や生き方を支える・人と環境の関係性 5 ソーシャルワークが行われる場所 様々な場所や分野・専門職の活躍する場所・仕事 6 専門職の活躍する場所・仕事のまとめと発表 7 ソーシャルワークとソーシャルワーカー 仕事と意義・やりがい 8 ソーシャルワーカーの資格 国家資格の必要性 9 社会福祉士の役割と仕事 社会福祉士及び介護福祉士法の理解 10 問題作成続き ①解く②解説③問題を解く 11 ソーシャルワーカーの専門性 理想のソーシャルワーカー像 (まとめる) 12 模造紙にまとめる・発表 13 ソーシャルワーカーを支える職能団体 活動・意義・役割 社会福祉士の行動規範 14 ソーシャルワークのグローバル定義		15 ソーシャルワークの誕生 社会状況・COSとセツルメント運動の違い 16. 問題作成 ①解く②解説③国家試験問題 17. ソーシャルワークの発展 各派の考え方の違い 18. 問題作成続き ①解く②解説③国家試験問題 19. 現在のソーシャルワーク 個人と社会を支える視点・ジェネラリスト・ソーシャルワーク 20. 問題作成 ①解く②解説③国家試験問題まとめ 21. ソーシャルワークを支える理念 一人ひとりの生活を支援する 22. ドラマから学ぶ DVD 感想発表 23. 利用者本位とは何か バイステックの7原則 24. 自立支援とは何か 25. ノーマライゼーションと社会的包摂 26. ソーシャルワークにおける倫理 定義・専門性との関係 27. ソーシャルワークにおける倫理 倫理が必要な理由 28. グローバル定義の復習 29. 事例検討 30. 事例検討 31. 期末考査	

[使用テキスト・参考文献]	ソーシャルワーク ミネルヴァ書房
[単位認定の方法及び基準]	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%)      到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul>

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 福祉住環境 I		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。	
授業の回数 31回	時間数(単位数) 62時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・福祉住環境に関する基礎知識を学ぶ。 ・福祉住環境コーディネーター3級の合格。			
[授業全体の内容の概要] ・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・過去問演習に関しては、グループになり実施する			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・過去問正答率80%以上			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 検定試験について 少子高齢社会と共生社会への道 2. 福祉住環境整備の重要性・必要性 3. 在宅生活の維持とケアサービス 4. 第1章テスト 5. 高齢者の健康と自立 6. 障害者が生活の不自由を克服する道 7. 第2章テスト 8. バリアフリーとユニバーサルデザインを考える 9. 生活を支えるさまざまな用具(1) 10. 生活を支えるさまざまな用具(2) 11. 第3章テスト 12. 住まいの整備のための基本技術 13. 生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい 14. 第4章のテスト 15. ライフスタイルの多様化と住まい		16. 安心できる住生活 17. 安心して暮らせるまちづくり 18. 第5章のテスト 19. 第36回(過去問) 20. 第37回 21. 第38回 22. 第39回 23. 第40回 24. 第41回 25. 第42回 26. 第43回 27. 予想模試1回 28. 予想模試2回 29. 予想模試3回 30. まとめ・振り返り 31. 期末考査	

<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>東京商工会議所著 『福祉住環境コーディネーター検定3級 公式テキスト』 東京商工会議所発行 2019年1月発行 価格：2,500円＋税 ISBN978-4-924547-62-9</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(85%)</li> <li>・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%)</li> <li>・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する(10%)</li> <li>・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する(5%)</li> </ul>